

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復しつつある」

項 目	前回（8年4月判断）	今回（8年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	回復しつつある	

（注）8年7月判断は、前回8年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、自動車関連を中心に回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている。

【各項目の判断】

項 目	前回（8年4月判断）	今回（8年7月判断）	前回比較
-----	------------	------------	------

個人消費	持ち直している	持ち直している	
生産活動	緩やかに回復しつつある	回復しつつある	
雇用情勢	緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている	緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている	

設備投資	7年度は増加見込み	8年度は増加見込み	
企業収益	7年度は増益見込み	8年度は減益見込み	
住宅建設	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	
公共事業	前年を上回っている	前年を下回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

スーパー販売は、持ち直している。コンビニエンスストア販売は、一進一退の状況にある。ドラッグストア販売は、緩やかに回復している。百貨店販売は、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、回復している。ホームセンター販売は、緩やかに持ち直しつつある。乗用車販売は、緩やかに持ち直しつつある。旅行取扱高は、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 商品の買上げ点数は減少傾向が続いており、顧客の根強い節約志向がうかがえる。一方で、精肉などの生鮮食品や冷凍食品は、価格が上昇する中でも一定の需要があるほか、花見シーズン等にはオードブルなどが堅調に推移した。(スーパー)
- 菓子やおにぎりは、値上げによりスーパーに客足を奪われ、販売が減少している。また、ゴールデンウィークにはオフィス街を中心に客数が伸び悩んだ。(コンビニ)
- 気温の上昇や晴天の日が増えたことで、UV化粧品や制汗剤が前倒しで売れている。ゴミ袋や洗剤などの日用品は、中東情勢悪化による品薄を懸念して買いだめする動きがみられ、売上げが大きく伸長している。(ドラッグストア)
- 気温の上昇に伴い除草剤や殺虫剤などの季節商品が売れているほか、エアコンは、来年4月の新たな省エネ基準の適用開始を控え、需要が高まっている。また、塩ビ管や合板などの建材は、中東情勢の影響を受けて一部で品薄となった。(ホームセンター)
- 3月末に自動車税の環境性能割が廃止されたことなどから、4月以降は販売台数が増加している。(乗用車販売)

■ 生産活動 「回復しつつある」

自動車関連は、回復しつつある。航空機体部品は、緩やかに回復しつつある。金属工作機械は、持ち直しつつある。半導体集積回路は、緩やかに拡大しつつある。液晶は、弱い動きとなっている。電気機械は、緩やかに持ち直しつつある。普通鋼は、横ばいの状況にある。特殊鋼は、緩やかに持ち直しつつある。

- 中東情勢悪化の影響について、中東向けを一時的に減産したが、代替ルートによる輸送が進展し始めたこともあり、比較的高水準な生産実績に落ち着いた。また、原材料価格の高騰による収益面への影響はあるものの、現時点で調達に支障は出しておらず、生産体制に大きな影響は出ていない。(輸送機械)
- データセンター関連の設備投資拡大を背景に、半導体製造装置向けの受注が増加している。(生産用機械)
- データセンター向けをはじめ様々な分野から旺盛な需要が続いており、フル稼働となっている。また、製品価格も上昇している。(電子部品・デバイス)
- 半導体関連の需要が増加しており、生産が受注に追いついていない。引き続き高い水準の需要が継続する見通しのため、生産計画の見直しも検討している。(電気機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている」

有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移している。完全失業率は、低水準である。法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI でみると、いずれの規模においても、また、製造業・非製造業いずれにおいても「不足気味」超となっている。

- 人手不足の状態が続いているため、できれば新たに人を雇いたい。しかし、原材料価格等の高騰により利益が圧迫されており、資金的余裕がないため、今いる人員で何とかやり繰りしている。(卸売)
- 他社との競合が激しく、整備士の資格保有者を採用できないことから、入社後の研修を通じて資格を取得させるなど、人材確保に苦労している。(小売)
- 企業における処遇改善の進展を背景に、転職を控える者が引き続きみられる。一方で、体力的に余裕のある高齢者の中には、年金受給額に影響しない範囲での就労を希望する者も引き続きみられる。(公的機関)

■ 設備投資 「8年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期

- 製造業では、「生産用機械」や「窯業・土石」などが減少となるものの、「情報通信機器」や「輸送用機械」などが増加となることから、増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸、郵便」や「不動産」などが増加となることから、増加見込みとなっている。

- AI サーバー等の更なる需要拡大に対応するため、生産能力の増強に向けた大規模設備投資を予定している。(情報通信機器)
- 鉄道施設の耐震工事や安全対策のための駅改良工事のほか、顧客の利便性向上のための投資を予定している。(運輸)

■ 企業収益 「8年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期

- 製造業では、「情報通信機器」や「窯業・土石」などが増益となるものの、「輸送用機械」や「生産用機械」などが減益となることから、減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「サービス」や「不動産」が増益となるものの、「運輸、郵便」や「情報通信」などが減益となることから、減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4-6月期

- 景況判断BSIで見ると、全産業の現状判断は、「下降」超となっている。また、先行き(8年7-9月期)は「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱い動きとなっている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、持家、貸家、分譲住宅のいずれも前年を上回っているものの、引き続き低水準で推移しており、弱い動きとなっている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

- 前払金保証請負金額で見ると、前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

- 輸出額(円ベース)は、前年を上回っている。なお、輸入額(円ベース)は、前年を上回っている。

■ 企業倒産 「前年を上回っている」

- 企業倒産件数は、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
愛知県	緩やかに回復しつつある	回復しつつある		個人消費は、持ち直している。生産活動は、回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善している。
岐阜県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
静岡県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、改善に向けたテンポが緩やかになっている。
三重県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、持ち直している。生産活動は、回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。